

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## 「謝る」：日・タイの謝ることばと行動の比較

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): Japanese and Thai apologetic expressions, etiquette, greetings, Grice's Cooperative Principle, conversational implicature 作成者: 堀江, インカピロム プリヤー, HORIE, INGKAPHIROM Preeya メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00001140">https://doi.org/10.15084/00001140</a>

# 「謝る」

— 日・タイの謝ることばと行動の比較 —

堀江・インカピロム・プリヤー

---

HORIE INGKAPHIROM Preeya: Apology –A Comparative Study on Apologetic and Behavioral Expressions in Thai and Japanese–

要 旨：本稿は、日・タイの謝ることばの使い方、意味、機能の比較を通じて、謝り方の背景にある社会・文化がそれらにどのように反映されているかを、在日中のタイ人にたいする調査結果も交えて、論じたものである。また、調査項目にはタイ人から見た日本人の謝り方についての意見もくわえ、日本人の言語行動をどのように理解しているかも調べた。これらのことによって、日・タイ間の謝り方と謝ることばの概念の相違点を明らかにし、誤解を招く原因を考えてみた。また、謝り方にはグライスの行動原則を適用できるか否かについても検討した。その結果、日・タイの人々の謝り方のズレをより明確にし、今後の研究課題を導き出すことができた。

キーワード：日・タイの謝ることば、エチケット、あいさつ、グライスの行動原則、言外の意味

**Abstract:** A comparative study of the usage, meaning and function of Japanese and Thai apologetic expressions reveals that these expressions reflect the social, and cultural backgrounds of the two societies. The primary assumption behind this work is that Thai speakers misunderstand the apologetic expressions used by the Japanese, and that differences in conceptualization employed in the two languages will lead to a better knowledge of the causes of these misunderstandings. Based on a written survey, the author shows the extent to which Thai people understand the apologetic expressions employed by the Japanese. The extent to which Grice's Cooperative Principle can explain the strategies of apology used by the Thai and Japanese is also examined. This survey and analysis reveals the gaps and misunderstandings that cause Thai people to misunderstand Japanese apologetic expressions.

**Key words:** Japanese and Thai apologetic expressions, etiquette, greetings, Grice's Cooperative Principle, conversational implicature.

## 1. 研究の目的

本論の一つの目的は、日・タイの人々が使う謝ることばの比較を試みることにある。これには、日・タイの謝ることばは、相手、場所、状況によって使い方にどのようにそれぞれの社会、文化、習慣などを反映しているかを明らかにしたいという意図も含まれる。

また、もう一つの目的は、日本語学習者には、日本の文化、習慣などについて、まだ十分理解していない段階において、日本人の言語行動の中に不可解な点を見たり、違和感を覚えて、そのために日本人や日本文化にたいして誤解をしてしまう傾向がしばしば見られると思われ、その原因を追求することにある。

## 2. 研究の方法

日・タイの謝ることばについて比較して、それぞれの相違点を明らかにすれば、相互の誤解やミスコミュニケーションを引き起こしがちな原因が明確になるのではないかと考える。そのため、日本に在住の、日本語が相当程度理解できるタイ人86人を対象にしてアンケート調査を行なった。

アンケートを実施する前に、日・タイの謝ることばが原因で誤解が生じているのではないかという一つの仮説を立て、数人の日本人とタイ人に、口頭で質問を試みた。その結果、日・タイの人々双方が、謝ることばについての理解が十分ではないためお互いに誤解している可能性が高いという確信をもつことができた。それで、さらに詳しい質問項目を作って在日のタイ人にたいして後述の調査を行なった。

## 3. 日本語の謝ることば

まず、日本語の謝ることば、「すみません」、「ごめん（なさい）」、「もうしわけない」の意味と使い方に限って、見てみたい。

### (1) 「すみません」

「すみません」には多様な使い方と意味がある。

まず、「すみません」は日常生活であいさつことばとして無意識に使われているので、本来の意味が次第に失われてしまっている。たとえば、「すみません、お茶ください。」

また、「すみません」は感謝のことばとして「ありがとう」より多く使われている。(水谷, 1977, pp. 105)

次に、「すみません」は悪いことをしたときに謝ることばとして使われている。

第一のあいさつことばの「すみません」は、英語の“excuse me …”の使い方と似ている。たとえば、見知らぬ人に路上で道をたずねるときに、「すみません、渋谷駅まではどう行ったらいいでしょうか」などを使う場合である。あるいは、誰か知らない人が財布を落としたのに気づかず行ってしまいそうになったとき、その人に呼びかけるために「すみません、財布、落とされましたよ」などと使う。

第二の感謝のことばとしての「すみません」は、やや距離のある間柄の人同士や、目下から目上に使われる。たとえば、先生から参考書を貸してもらった学生は、たいてい「どうも、すみません」と言い、「ありがとうございます」とはあまり言わない。

金田一によると「日本人は、感謝する以上にあやまるのが好き」(1977, pp. 242) であるという。

たとえば、感謝のことばである「ありがとう」の代わりに「すみません」を使う場面が多い。柳田國男によると「スムは恐らく澄むといふ漢字を宛ててもよい語で、氣が澄む心が澄むといふのは、安らかで動揺の無いことを意味したかと思ひます。あなたにこの様なことをしていただいては、私の心が安らかでありませんといふのが、このスミマセンの最初の感覚でありました。」(1946, pp. 14)

相手に面倒をかけたり、こちらのせいで相手に不都合なことがあった場合、「すみません」を使うだけでなく、相手にそこまでしてもらっては自分にはふさわしくない、もったいない、と思うときに使う。

したがって、席を譲られたときに「すみません」と言うのは、そこま  
で気を遣わせて、面倒をかけてしまって、謝らなければならない、とい  
う意味で使われている。また、取引先から中元の品物を受け取った会社  
の課長は「先日はお心遣いいただきまして、かえってすみませんでした」  
などと言う。

しかし、この「すみません」は、相手に謝り、同時に感謝する気持ち  
を表すときにも使われる。「どうも、すみませんでした。ありがとうご  
ざいます」ということばを、日本人は一般に相手に何かしてもらったと  
き、一時間を割いてくれたり、労働を提供してもらったり、あるいは、  
努力してもらったりしたときなどに、謝ると同時に感謝を表すために使  
う。<sup>\*1</sup> たとえば、友人が旅行へ行ってみやげ物を買ってきてくれたと  
きに、「ありがとう…わざわざすみませんね」などと言う。また、多  
少距離のある知人などから何か受け取ったときには、改めて「結構な  
物を頂戴いたしまして、どうも、すみませんでした」などと言う。

第三の謝る「すみません」は、何か悪いことをしてそのことを認め、  
謝るときに使われる。たとえば、喫茶店でウェイトレスがお客の服にコッ  
プの水をこぼしてしまったとき、「どうも、すみません」と使われる。  
あるいは、テレビ・ドラマなどで警察に捕まった容疑者が犯行を認める  
ときに「すみません、お手数をおかけしました」と言うことが多い。

第四の「すみません」は、日本の社会的エチケットとして、悪いか悪  
くないかは別にして、とりあえず謝るというときに使われる。<sup>\*2</sup>

『日本語の特質』(pp. 243) の中で金田一は、落語『垂乳根』の例を  
引いている。「八つぁんという人のところへ思いがけなく、お屋敷に奉  
公していた鶴という娘さんがお嫁にきます。ひと晩たった翌日のこと  
ですが、この鶴女という女性が『一旦偕老同穴の契りを結ぶうえは、百年  
千年も経るとも、君、心を変ずることなかれ』と大変難しいことばであ  
いさつをする。八つぁん、ちっともわかりません。そこで何と言うかと  
いうと『ええ、何だか知らねえが、お気にさわるものがあたらご勘弁

願います』あやまりさえすればいいという気持ちがよくあらわれています。」

自動車の事故を起こしたとき、どちらが悪いかは別として、日本人の場合はエチケットとしてお互いに「どうも、すみませんでした」と謝ることが多い。日本人の間ではこういった場合、「すみません」と言ったからといって自分の側に非があったと認めることにはならない。多くは無意識のうちに単なるあいさつことばとして使われる。

実際、アメリカに留学中だった私の日本人の友人がちょっとした接触事故を起こしたとき、思わず相手に“I'm sorry.”と言ってしまい、その事故の責任をすべて負うはめになったことがある。

## (2) 「ごめんなさい」

「ごめんなさい」は自分の家族あるいは友人、目下、子供にたいして謝るときに使われ、正式な場面では使われない。「ごめんなさい」は次のような状況で使われる。

まず、呼びかけとして、相手の注意を引くために使う。「すみません」と同様、この場合も英語の“excuse me”と似ている。たとえば、庭で遊んでいる子供たちの注意を引くために、「ちょっと、ごめんね」と言い、それから「ぼくのママはどこ」とたずねる。

次に、相手に迷惑をかけたときに謝ることばとして使う。たとえば、「ごめんなさい。山田さんの茶碗を割ってしまって」など。あるいは、「ごめんなさい。電車が遅れたので遅刻してしまって」または、「ごめんなさい。あのことを、つい、うっかり、人にしゃべってしまって」とか、相手を傷つけたときに謝ることばとして「ごめんなさい。ぼくが悪かったです」、あるいは「マミちゃん、ばあちゃんが嫌な思いをさせて、ごめんなさい」など。

三番目に、行儀の悪いことを親にしかられた子が謝るときのように、とくに家庭内で誰かに何か不適切な行為、または、ことば遣いをしたときに求められて使う。たとえば、「あきらちゃん、また、となりのエミ

ちゃんをいじめて泣かせたでしょう。なんで言うことを聞かないの」  
「ごめんなさい」など。<sup>\*3</sup>

最近、若い世代は「ごめんなさい」の代わりに「ごめん」をよく使う。しかし、30代から40代の男性は「ごめん」あるいは「ごめんね」をあまり使わない。というのは、これらのことばは子供っぽい、あるいは女性的だと考えられているからで、その代わりに「すみません」あるいは「ごめんなさい」をよく使う。

30代後半と40代前半の日本人男性に「ごめん」または「ごめんね」を使うことについてたずねたところ、これらのことばは、謝ることばとして使われるのには軽すぎる、また、心から悪かったと思って謝っている印象を受けない、ということであった。

たとえば、テニスをしていて、ボールをコートの外に打ってしまったとき、「ごめん」と言う人が多いが、これには心がこもっていないと感じるし、聞く方は決して良い感じではないという。

(3) 「もうしわけない」、「もうしわけありません」

「もうしわけない」は、もう一つの謝ることばとして使われているが、このことばは、間柄の遠い人、または社会的地位の開きのある人、年齢的に差の大きい人などに使うことが多い。

10代後半から20代半ばの日本人に聞いたところ、この「もうしわけない」を日常生活において使ったことがないとのことであったが、30代以降の男性は、目上あるいは距離のある人に何かを依頼するときには「もうしわけありませんが……」をよく使うということであった。

また、「もうしわけない」は、相手に不自由をかけるときに、とくに誰だか分からない部外者にたいしてよく使う。たとえば、「もうしわけありませんが、斎藤はただ今、外出しています」などと言う。<sup>\*4</sup>

#### 4. タイ語の謝ることば

(1) Khǎothōod

タイ語にもいくつかの謝ることばがある。直訳すれば、“Khǝothōd”は「罪や罰を乞う」、Khǝprathanthōd は「罪や罰を戴きたい」、また、Khǝaphai は「危険がないようにお願いします」という意味になる。

“Khǝothōd”には日本語と似ている二つの使い方がある。一つは単なるあいさつことばとして、たとえば、“Thōd nā khā roṇṇāy Sayāam yūu thīnāi khā”（すみません、サイアム映画館はどこにありますか）と言うとき、あるいは、人混みで自分の進路をあけてほしいときに、“(Khǝ)thōd nā khrāb”<sup>\*5</sup>（すみません）を使う。もう一つは、謝ることばとして、たとえば、道で誰かと意図せずぶつかってしまったときに、“(Khǝ)thōd nā khrāb”と言う。

日本人は約束を破ったり約束の時間に遅れたりした場合、相手に会ったときに、あいさつとして無意識に「ごめんなさい」と「すみません」をよく使う。しかし、タイ人には遅れたときに自分が悪いと思わなければ、“Khǝothōd”を言う必要はないと考える傾向がある。また、遅刻したことをまったく話題にもしないか、あるいは、軽く謝ることばを使う者もいる。<sup>\*6</sup>しかし、同じ状況でも、自分が遅れて相手を待たせたことを悪いと思えば、そのときタイ人には遅れた理由を相手に説明する者もいる。たとえば交通渋滞で遅れた場合は、“Thōd thii phōdii rōd tīd”（ごめん。道路が混んでいたんだ）などと言う。または、人によっては遅刻の理由を何も説明しないで、何もなかったようにすました顔をしていることも、とくにめずらしくはない。

前述の日米の例でも見たように、同じ交通事故の際に何と言うかも日・タイでちがってくる。

日本人同士なら、とりあえず「どうも、すみません」と言うことが多いのだが、この「すみません」は深刻な状況下でその緊張した雰囲気やを少しでも和らげて、事故の検証という次の段階へ円滑に移行するための、ひとつの潤滑剤としてのあいさつことばではないかと考えられる。

## (2) Khǝprathanthōd

“khǝprathaanthōod”も、タイ語の謝ることばであるが、本来は、社会的階級が今日より明確に分かれていた時代に、位の低い者が地位のきわめて高い者にたいして使う、謝ることばであった。それで現在では“khǝthōod”ほど頻繁には使われないが、学生など若い人が戯れとして使うことがある。たとえば、パーティーの会場で親しい先輩が後輩に、“M̄x cai dam caŋ m̄iyoom t̄aŋ kh̄aaw h̄ai l̄œi n̄a”（まあ、冷たいわねえ、ご飯も取ってくれないのね）と言うと、後輩は冗談で、“Khǝprathaanthōod khr̄aab ph̄õm m̄ai h̄en w̄aa ph̄i ȳu kh̄aŋ kh̄aŋ ph̄õm”（申し訳もござりませぬ。先輩がそばにいらっしやることなど、ついぞ気がつきませんで…）などと答える。

また、“khǝprathaanthōod”は、好きではない人やあまり親しくない人にたいして皮肉に使われることもある。たとえば、うっかり誰かの足を踏んでしまったら、相手がいかにも大げさに大きな声を出したような場合、足を踏んでしまった人も大げさに、馬鹿でいいいに、“Khǝprathaanthōod n̄a khr̄ab ph̄õm m̄ai d̄ai c̄eetanaa”（申し訳ございません。わざとやった訳ではございません）などと言う。

あるいは、実際以上に上流階級であるように見せたい場合、わざわざ、このようないねいで改まったことばを使い、相手との違いを強調することもある。

### (3) Khǝaphai

“Khǝaphai”は、もう一つの謝ることばで、友人同士などの間では使われず、改まった状況でしか使われない。大きな会議、結婚式などでは、多くの社会的身分の高い人々が集まっているので、このような改まったことばを使うことが必要となる。

たとえば、会議の開催が遅れたり、パーティーの料理が足りなくなったり、あるいは来客が予想より多く部屋が狭すぎる、といった場合に“Ph̄õm nai th̄aan̄a ph̄u c̄ad ɲaŋ t̄ɔŋ khǝaphai th̄an ph̄u m̄i k̄iəd th̄úg th̄an nai khwaam kh̄l̄uŋ kh̄l̄uŋ k̄iaw k̄ab r̄uŋsath̄aŋ th̄i kh̄õn

khāaŋ khēeb pai nōi”（会場が狭くて、ご来客の皆さまにご迷惑をおかけいたしまして、主催者として、まことに申し訳ございません）などを使う。このような、地位の高い人を含めて多くの来賓が集まっている場合には、“khǝothōd”を使うのは軽すぎると考えられる。

また、飛行機の中のアナウンスで、予定どおりに運行できないことを乗客に謝る場合などにも、同様に“khǝaphai”が使われる。その理由は、一つには大事な乗客にたいしての礼儀であり、もう一つの理由は、英語や日本語のアナウンスでは、遅延の場合、謝るのが普通であるので、その影響を受けているのではないかと考えられる。

さらに、“khǝaphai”は改まった手紙などにもよく使われることばである。

## 5. 日・タイの深刻な状況に見る謝ることば

自動車の事故の時でも、日本人は無意識にお互いに謝ることが多いといわれる。車両の接触などの、ちょっとした自動車事故を経験した5人の40代の日本人男性に確かめたところ、やはり、そのような場合、自然に「すみません」ということばが出てしまったという。「すみません」と言った理由は、自分の責任を認めたということではなく、緊張したその場の雰囲気を少しでも和らげ、その後の相手との関係を円滑にするために、そのことばがほとんど無意識に出てしまったということであった。

しかし、タイ人の中で起こる一般の交通事故を見ると、深刻な事故であるほど、タイ人は日本人のように簡単に謝ることはしない。もし、謝ることばを口にすれば、その事故の責任はすべてその人にあることになり、事故の賠償をしなければならなくなるのが普通だからである。また、どちらが悪いのかはっきりしない場合は、やはり、謝ることはしないで、相手の反応をお互いに見て、相手が強く出れば、こちらも強く出るなどの作戦で対応する。

たとえば、まず、車を降りて自分と相手の車の被害の程度をよく観察するに違いない。つぎに、自分の車がどれほどひどい損傷を受けたかお互いに主

張して、相手の落ち度を責め合うであろう。しばらく激しくやり取りをしているうちに、交通巡査がやって来る。警官が事の始終を聞きにかかるが、その間も少しでも警官の裁定を自分に有利に導こうとして自分はいかに正しく、相手が間違っているかを主張し合う。最後に、警官はどちらが悪い裁定を下し、責任のある方に賠償するように命令する。それでも、責任があるとされた者は、賠償するのであるから相手に謝る必要はないと考えることが多い。

このように、タイ人には日本人とちがって、すぐに相手に謝るという習慣はない。もし、タイ人がこのような状況で “*khǎothōod khā/khrāb*” と言え、すべて自分の罪だと認めて、全部の賠償をするということになるので、たとえ、内心、自分が悪かったと思っていても、深刻な場合にはなればなるほど謝ることはない。

## 6. タイ語の諺に見る価値観

一般のタイ人は、何か誤解に基づいて喧嘩した場合、自分の意見や考え方、あるいは誤解された点について、相手に主張し、説明する。その結果、二人の間の状況が良くなる場合もあるし、悪くなる場合もある。いずれにしても、普通はお互いに謝ることはない。次回、会ったときには、前にあった喧嘩は忘れたふりをして、普通に話し、何もなかったように振る舞う。

ワッチャナスントーンの『タイ語の諺における価値観』によると、「タイ人の特徴は、容易に許し、忘れ、妥協すること」であるという。タイ人の「許すことと適応力は、タイ語の諺によく表われている。たとえば、“*Fūn fōi hāa takhēb*” (すでに収まったことを、また蒸し返し問題にする)、あるいは、“*Sīi tiin yaŋ rūu phlāad nāgprāad yaŋ rūu phlān*” ≪四つ足にして、なお、つまづくことを知り、博学者にして、なお、誤ることを知る≫<sup>\*1)</sup> (1980, pp. 30)

この諺には、「お互いに同情し相手のしたことを許すべきだ」という考え方を見ることができる。したがって、『許す』ことはタイ人の理想的な寛容の概念であるが、このような伝統的な『許し、忘れ、妥協する』という概念は、

激しい競争社会へと変わりつつある今日のバンコクの人々には必ずしも明確に見られるとは限らない。今日のバンコクの人々は、ビジネス上の摩擦や誤解に基づく喧嘩が起きたとき、あるいは悪意ある噂を流されたときなどには、地方に住んでいるタイ人より深刻にとらえて、人間関係を断絶するまでに至ることも多くなった。一般にタイ人は、恥をかき、名誉を失うくらいなら死んだ方がましだ」(1980, pp. 39) と考えるのである。

## 7. 妥協

タイ人は一般に、何か摩擦があったときに謝らないので、次のような妥協をする。

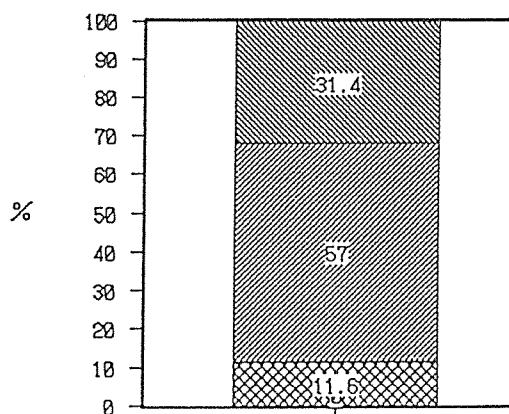
まず、その件が未解決であっても二度と口にしない、あるいは話題にしない。お互いにその件を無視することによって、人間関係を維持することができる。

事態がより深刻な場合、当事者が尊敬できる第三者が依頼されて、あるいは自発的に、仲介者となって、当事者の仲を取り持ち、仲裁する。この場合、当事者たちは仲介者の面子を保つために和解するのであって、お互いに謝ることはないし、どちらか一方が恥をかくこともない。このやり方によって、タイ人の間に持ち上がったトラブルはたいていの場合、片づくことになる。しかし、これでは、肝心の問題の本質的解決にはならないことが多いのも事実である。

## 8. タイ人から見た日・タイの謝り方についてのアンケートの結果から

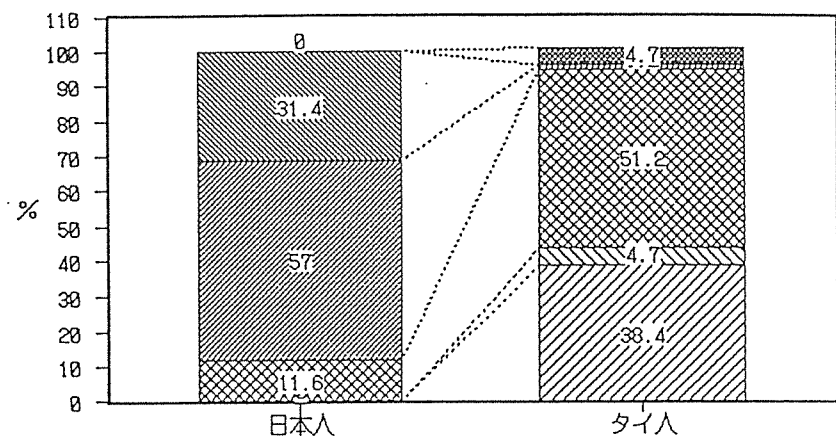
1991年4月から9月にかけて、筑波、東京、名古屋に在住の86人のタイ人にたいしてアンケートを実施し、日・タイの謝ることばについての意識を調査した。(429ページ参照) 回答者のデモグラフィックなデータは次のようであった。性別：男性44名、女性42名。職業：学生54名、教員8名、技術者4名、その他11名、無回答8名。平均年齢27.0歳。タイにおける日

質問 1 謝ることばを使う程度



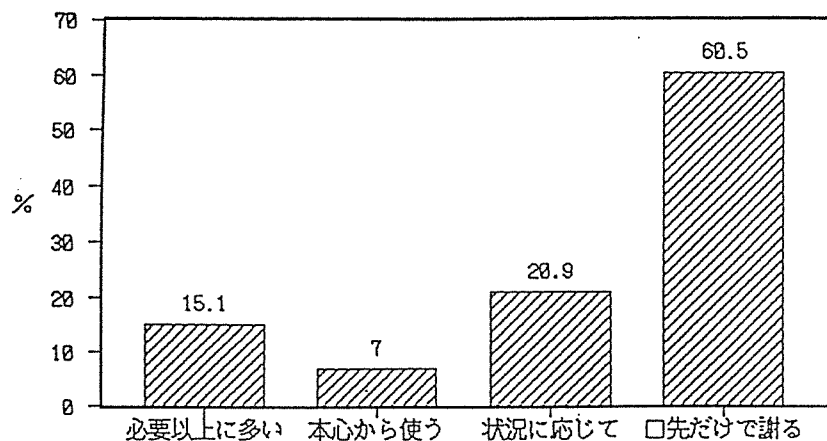
たいへん少ない
 
 少ない
 
 普通
 
 多い
 
 たいへん多い

質問 1+6 日・タイの謝ることばを使う程度

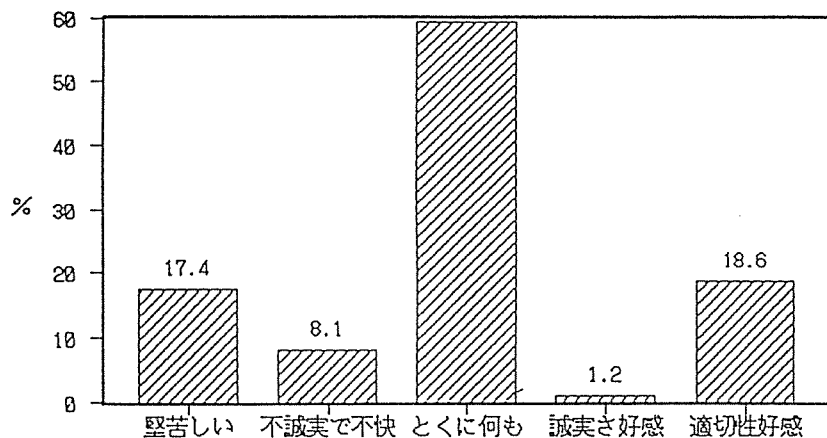


たいへん少ない
 
 少ない
 
 普通
 
 多い
 
 たいへん多い
 
 N.A.

質問2 謝ることばをどう思うか（複数回答）



質問4 日本人が謝る時どう感じるか（複数回答）



本語学習歴平均 9.6 カ月。日本における日本語学習歴平均 9.8 カ月。在日期間平均 2.7 年。

この調査に答えたタイ人の 88.4% は、日本人は謝ることばを頻繁に使いすぎると感じていて、タイ人の日常生活で使う謝ることばが多いと答えたタイ人は 1.2% にしか過ぎなかった。

ただし、日本人が謝ることばを多く使っても、60.5% のタイ人は、日本人は「口先だけで謝る」と思っている一方、それが不誠実で不快だと思っている者は 8.1% にしか過ぎない。このことは、日本の文化・習慣の一部である「謝ることば」について知識としては、ある程度理解していることを示していると考えられる。

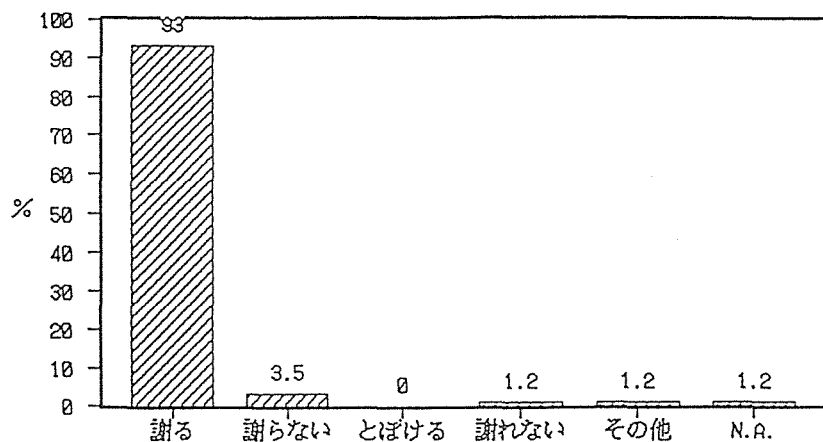
ところが、自由記述式の回答では、日本人の謝り方について「不誠実である」または「まごころからではない」、「形式にこだわり過ぎる」などと、否定的な意見を持っている者が 40.7%、くわえて、「日本人は話し方がうまく、相手を傷つけないが、誠実なのか不誠実なのか分からない」、「口先だけなのか、まごころなのか分からない」、「外面はていねいで謙虚に見えるが、中身は分からない」などといった、突き放した冷たい見方をしている者も 4.7% いた。

つまり、選択式の回答では、一見、日本の文化・習慣の一部である謝ることばについて、理解を示しているような結果が出ているにもかかわらず、記述式の部分の回答では、前者とは矛盾した結果が出ている。

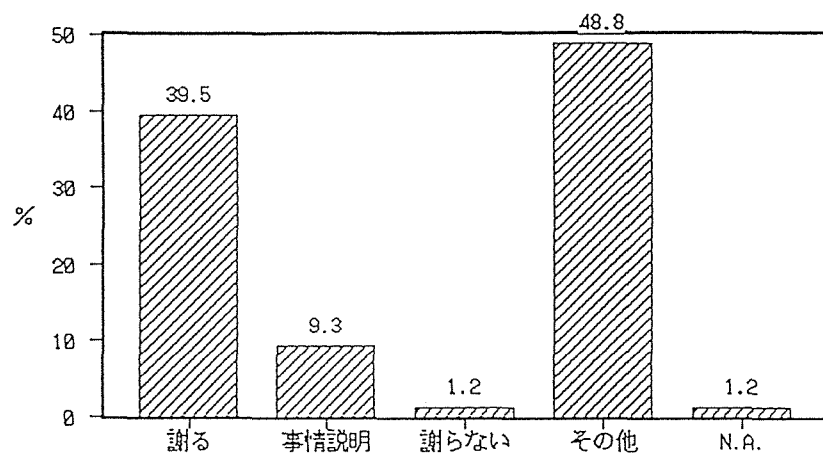
一方、タイ人の謝り方について、状況を例示してたずねたところ、遅刻した場合、93.0% の回答者は「すぐ謝る」と答えた。ところが、友達のを借りてアイロンをかけた服の色が変わってしまったときには、「すぐに謝る」と答えた者は 22.1% であって、遅刻の場合の四分の一以下に少なくなる。

また、友達のコップをうっかり割ってしまったときには、58.1% は「自分の不注意を謝って、新しいコップを買ってあげると約束」し、19.8% は「すぐに謝る」が買って返すとは言わない。あるいは 11.6% は「見えない所にコップを置くから」と半ば冗談めかして言う。ここでは、日本人の場合に容

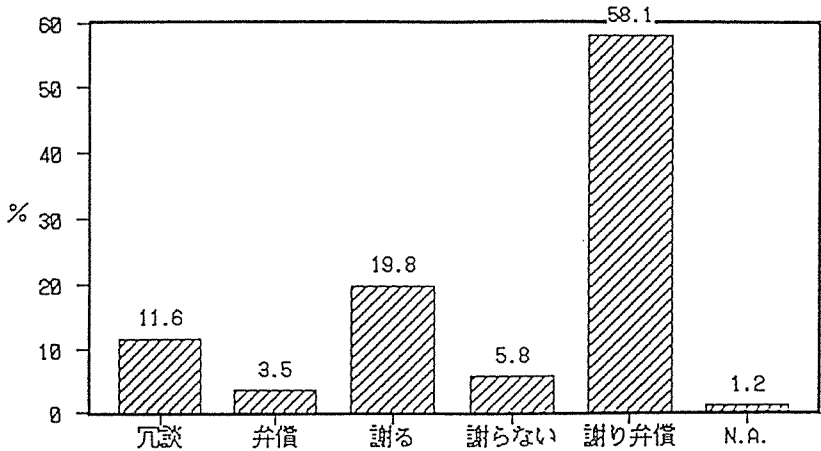
質問8 友達との約束に遅刻した場合



質問9 友達の服を焦がしてしまったとき



質問 10 うっかり友達のコップを割ってしまったとき



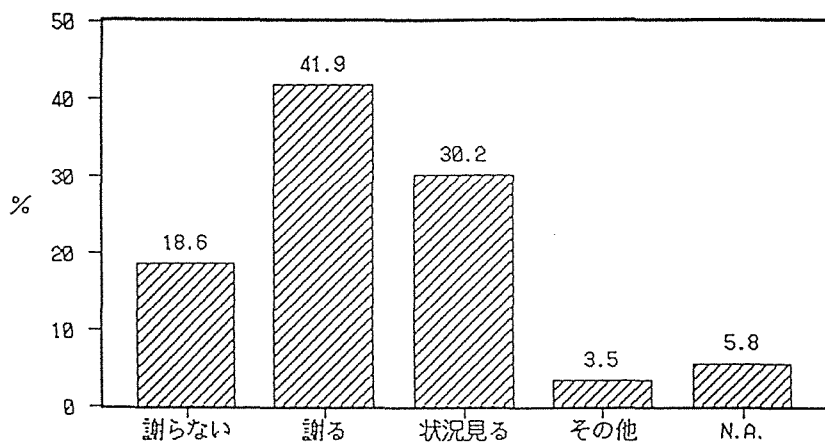
易に予想されるような、何でもいから、まず、すぐに謝る、といった傾向は見られず、様々な方法がタイ人の中には存在することが分かる。

さらに、誰かと喧嘩した場合、争いがあったことを謝ると答えた者が 44.2%，二度とその話をしないという者が 40.7%であった。

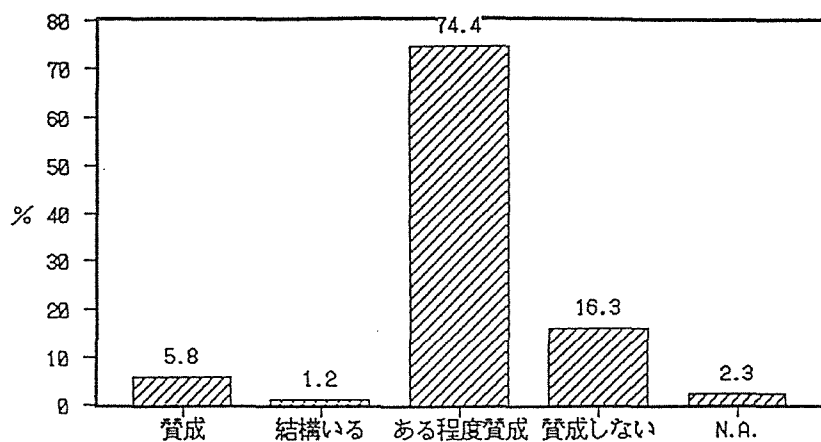
タイ人の特徴を知るうえで興味深いのは、自動車事故の場合である。事故の相手に、謝らないと答えた者が 48.8%，「謝る」と答えた者が 41.9%であった。しかし、その場合、謝るためには、「自分が本当に悪かった」、あるいは「自分が悪いと感じたとき」という条件が必要であり、また、「謝ることによって、賠償額が少なくなるように」もしくは「相手がこれ以上怒らないように」という目的がともなう傾向が強い。

タイ人は、また、小さいことについて「謝らない」者が 53.5%，「謝る」者が 44.2%，深刻で賠償責任がともなうような場合には「一般のタイ人は謝らない」と答えた者が 51.2%であるのにたいして、「(自分自身は) 謝らない」と答えた者が 31.4%，無回答 19.8%であって、自分自身は謝らないということを答えるのに抵抗があるために、無回答が増えたのではないかと

質問 11 自動車同士の衝突事故



質問 16 タイ人は言い訳をすると言われるが



考えられる。

もう一つ注目できる結果は、「タイ人は悪いことをしたときに謝らないばかりか、自分が悪いのに言い訳をしてかえって相手を責める、とある日本人は言いますが、あなたはどう思いますか」という問にたいして、「ある程度は賛成である」74.4%、「賛成」5.8%、「言い訳をして謝らないという点は賛成」1.2%の計81.4%が賛成するという答が出たことである。

この調査の結果を見ると、一般のタイ人は謝らないが自分自身は謝る、または、謝るがただしこれこれの条件のときにかぎる、などといった回答が多いことに気づく。したがって、この調査の結果が現実の場面ではどのように変わって来るのか、たいへん興味深く、今後、この点についても調査を進めたいと考える。

## 9. 日・タイの謝ることばはグライスの行動原則に適合するか

ここで、日・タイの謝ることばがH. P. グライスの“Cooperative Principle”の四つのカテゴリーに適合するかどうかを見てみたい。

状況や深刻さの程度の違いによる日・タイの謝り方の比較を見ると、軽い場合、たとえば、意図せず他人の足を踏んでしまった場合、日本では謝る人よりも謝らない人の方が多いということは、しばしば外国人から指摘されてきた。とくに東京などのラッシュ・アワーの電車の中などで他人の足を踏んでも、ほとんどの人は何も言わない。しかし、タイでは、ほとんどの人は謝る。タイの場合、このようなときに謝ることは一つの社会的エチケットであり、相手にたいして悪いことをしたと思う人も多いので、たいていは謝る。日本では、ラッシュ時の車中で足を踏んでしまったときに謝らなければならない、という社会的エチケットは確立されていないという解釈も考えられる。そうでなければ、何かにつけて謝る日本人のエチケットやマナーにまったく反することになり、理解できない。

次に、タイ人が遅刻した場合、謝らない人が多い。その理由は、タイ人にとって遅刻はたいしたことではないと考えられ、バンコクではおうおうにし

---

	他人の足を踏んでしまった場合：	
	謝らないことが多い	謝 る
軽	賠償責任がない場合（遅刻したときなど）：	
い	謝る	謝る／謝らない
↑		
↓	賠償責任が伴う場合（交通事故，他人の物を壊した場合など）：	
深	謝る＋交渉	状況をうかがい，相手の出方を見る
刻		主張する（＋謝る）
	一方的に自分の責任であることが明白な場合：	
	謝る	謝る／謝らない

---

て交通渋滞のために遅刻するので，自らの責任ではないと考え，いちいち謝るのはおかしいし，謝ることを要求する者はささいなことにこだわる寛容さのない人と思われるからである。一方，遅刻を謝る人もいるが，その理由は，遅刻したことを本当に悪いと思っているのであって，単なるあいさつとして謝るわけではない。

状況が深刻な場合，たとえば他人の物を壊してしまったとき，日本人なら，まず，謝り，それから事後の措置を話し合う。タイ人なら，自分が悪いと思わなければ絶対に謝らないし，どちらに責任があるかはっきりしない場合も謝らない。また，もし，自分に責任があると思った場合は，賠償の交渉を有利に進めるために，自分から先に謝ることはしない。もし，謝ればすべての賠償責任がかかってくるからである。要するに，タイ人の場合，日本人とは違い，状況が深刻であればあるほど謝らないといえる。

では，タイ人は日本人とちがって礼儀を知らない人々なのだろうか。さまざまな状況でタイ人がどのように謝っているかを調べてみれば，日本人との違いが明確になると考える。

タイ人は、謝ることばを口に出す以外に、他の方法で謝っているのではないかということに注目してみたところ、私自身がタイ人の実際の行動を観察した結果と今回のアンケート調査の結果、次のような行動の傾向があるのではないかと考えるに至った。

1. 本来、謝らなければならないことについて、二度と話題にしない。
2. 事情を説明し、悪意がなかったことを相手に分かってもらおうとする。
3. 半ば冗談めかして、どちらにも責任があるということをやんわりと言い、双方とも謝らずに済むようにする。
4. 自分の過失により、どのように処分されても仕方がないといった意味の冗談を言い、間接的に責任を認める。
5. 間接的な言い回しで、自分が反省していることを示す。
6. 自分の失敗をはぐらかすために、作り笑いや苦笑いでごまかし、とぼけて関係のないことを言う。
7. 明らかに自分に非があり相手から責められた場合、言い訳しようがなくないと、沈黙する。<sup>\*8</sup>

これらの傾向について、現実にはタイ人はどのような状況でどう行動するか、その相手との関係や深刻さの程度、あるいは環境などによって、もしくは年齢、性別によってどのように表われるか等について、今後、さらに調査しなければならない。

ところで、タイ人が使う“khǎothōod”も、また、日本人が使う謝ることばも、もし、それがあいさつであれば、グライスの行動原則に当てはまらない。(堀江、「日本語とタイ語の会話行動における社会文化的相違」、1990)しかし、実際にタイ人が使っている謝ることばは、自分が本当に悪くなければ使わないし、もし、悪くないのに謝れば、グライスの行動原則の2-a「嘘だと思ふことを言うな」に反することになる。また、どちらに責任があるのか分からない場合、謝らないというのは、グライスの行動原則の2-b「十分な証拠のないことを言うな」に該当する。さらに、自分が悪くないと思えば相手に事情を説明するのは、グライスの行動原則の1-a「必要とされる情報を

提供せよ」に当てはまる。

タイ人が謝ることばを使うべきときに、謝ることばを言ったり言わなかったりする一方、前述の項目1から7のような行動をとることは、グライスの行動原則に当てはまらない部分もあるといえるかもしれない。とくに、前述の項目5は、グライスの行動原則の4「あいまいな表現を避けよ」に反するかもしれないが、グライスは、四つの行動原則のほかに、それを補うべき“conversational implicature”という要素の存在を指摘した。つまり、表面的なことばどおりの意味ではなく言外に意味するところを理解する必要性があることを指摘したわけである。このようなわけで、この項目5は、“conversational implicature”に該当するのではないかと考えられる。

ここで、タイ人の間で交わされる典型的な会話を見ると、たとえばAがBのコーヒー・カップを洗っていて、誤って割ってしまった場合、次のような例が普通である。

A : Mûakií aw thûai pai láaŋ phoodií lûuun muu tham tōg tēg

「さっき、カップを洗いに行って、たまたま手がすべって、割っちゃった。」

B : Phǒm ej kǎo láaŋ tēg pai lǎai bai

「僕だって、いくつも割ったことあるよ。」

グライスの行動原則にしたがうなら、分かりにくい、あいまいな、簡潔でない表現を避け、明確に情報を与えなければならない。しかし、Aは“khǎo thōd”をBに言わなくても、Aの話を聞けば、Aが故意ではなくカップを割ってしまったことが分かるので、Bは「僕だって、いくつも割ったことあるよ。」と言うだけで、別段、“māi pen rai”（気にしないで）ということばを使わなくても、タイ人同士の場合に限れば、Bは、Aをなぐさめてくれ、Aの顔をつぶすまいとしてくれていることが分かる。この行動はグライスのいう“conversational implicature”に該当するのではないか。つまり、直接、謝ることばを口に出さなくても、失敗が故意からではないということを相手に伝えれば、カップを割った方の顔もつぶれないで済むし、一言、断わって事情を説明したことにより、割られた方も無視されたわけではないので、

顔をつぶされたことにならない。

次に、タイ人は、謝ることばを使わずに前述の項目3の方法で、双方とも謝らずに済むようにする。このような場合、グライスの行動原則に該当するといえるかどうか、判断しにくい。というのは、タイ人が半ば冗談めかして、どちらにも責任があることをやんわりと言うことには、単なる冗談ではなく、相手に客観的な状況についての情報を与える役割もあるからである。しかし、このやり方はタイ人以外の人々には必ずしも通じるとはいえない。そして、グライス自身はこの点にはふれていない。したがって、相手に明確な情報を与えないで、あいまいな言い回しをする点については、グライスの行動原則に当てはまらないといえる。

ここで、ジャネット・ホームズ (Janet Holmes) の “Apologies in New Zealand English” に示された見解に注意を払う必要が出てくる。ホームズは、「グライスの行動原則では、西欧社会における日常会話の役割の概念がゆがめられており、日常会話の社会的、情緒的目的の最も重要な役割を考慮に入れていない。」と指摘している。(1990, vol.19, pp.157)

仮に、ホームズのこの見解を、より適切なものとする、と、タイ人の謝る方法についてうまく説明できるのではないかと考えて、ホームズの調査結果とタイ人にたいする調査結果とを比較してみた。ホームズの調査には、ニュージーランド英語の謝罪方法の分類があり、謝罪方法を、A:謝罪の明確な表現、B:説明または弁明、C:責任の認知、D:二度としないという約束、の4つのタイプに分類している。<sup>\*9</sup>

ホームズの調査の結果、分かったことの一つは、ニュージーランドでは謝罪するときに、上のAのタイプが約半数で最も多いということであった。

ここで、タイ人にたいする今回の調査結果とホームズの調査結果とを、単純に比較するには、調査方法も異なり無意味であるとの指摘を受けるかもしれないが、今回のタイ人にたいする調査は、調査用紙の中にいくつかの具体的状況を設定した文章を記載し、回答者にも具体的状況を想像してもらいながら、なぜ、そうするかという理由も回答させたため、かなり実際の状況に

近いデータが得られたと考えている。もちろん、今後の課題として、では、実際にはそのとおりかどうかを確かめるための調査もしてみなければならぬと考える。

タイ人にたいする今回の調査の結果、何かあったときに「謝る」と答えた者にも必ず条件がついていて、自分が本当に悪かったと思ったときに限って謝ることが分かった。自分が本当に悪かったのかどうか知るためには、状況を確認したり、相手との話し合いにより双方の言い分や説明を検討することが先決となる。

ここで、ニュージーランドの場合と異なるのは、タイ人も明確な謝罪をことばにすることはあるが、それは、賠償責任が伴わないような、状況が深刻でない場合に限られる傾向があることである。タイ人にとって、状況が深刻であればあるほど、また、賠償責任が重ければ重いほど、ホームズの分類による B (A), BC (A), あるいは BCD (A) の謝り方を使う傾向が強い。

## 10. 結論

日・タイの謝ることばの違いが原因で、誤解が生じたり、摩擦が起きたりするの、日本人とタイ人の間で異なった会話の原則によって話をしているからである。つまり、場合によっては、タイ人の謝ることばはグライスの行動原則に則って使われたり、あるいは、それに該当しない使われ方をしたりしている。

しかし、日本人が使う謝ることばは主に社会的エチケットとして使うものであり、人間関係を円滑に保つために使わなければならないものであって、タイ人の場合とは異なった原則によって使われることが多い。

つまり、タイ人は、謝ることばを使わずに、日本人とは異なった方法で謝っているので、誤解を招く原因となるし、日本人はあいさつとして謝ることばを使うので、タイ人に誤解される原因ともなり得る。

状況が深刻な場合、タイ人には日本人のようにあいさつとして謝る習慣はない。タイ人には、仏教の「業（ごう＝カルマ）」の思想の影響により、許

し合い、人を恨まず、復讐しないという基本的な考え方があるので、相手に謝ることを要求することはなく、お互いに妥協して耐えることがひとつの解決法であると考えている。

済んだことにいつまでもこだわらず、そのことに二度とふれないという解決法も、タイのことわざ、《ごみ屑をほじくってタケuppを探すな》（「タケupp」は小さい多足類の虫）や、《四つ足にしてなおつまずくことを知り、博学者にしてなお誤ることを知る》などに影響された考え方によると解釈できる。

社会のエチケットなどがタイと日本とでは異なるために、それが原因となり、誤解が生じがちである。

タイ人と日本人の、謝ることばについての概念が違うために、行き違いによって摩擦が起こる。タイ人にとっては、謝ることは罪を認めることになり、賠償責任が生じる。賠償しなければならないかもしれない恐怖感から、謝ることを極力避けようとする。さらに、頭を下げて人に謝ることは、タイ人が最も大切にしている面子がつぶれ、名誉を失うことになる。

そこで、たとえ自分が悪いことをしたと思っても、タイ人の口からは、なかなか素直に“khǎothōod”ということばは出てこないで、状況を説明して理解してもらおうと試みたり、冗談ではぐらかしたり、二度とそのことを話題にしなかったり、あるいは、沈黙をしたりして、謝ることばを使わないで自らの体面を保ち、顔がつぶれないように努める。

タイ人社会においては、謝罪の意志の表明方法は必ずしも他の社会とは同様ではない。また、社会のエチケットや時間の概念も異なり、相手との社会的距離もそれぞれの文化・社会によって異なる。さらに、賠償責任の伴うことについては、社会的保証制度が完備しているか否か、あるいは、その者の経済力などによっても異なってくる。

したがって、「謝る」ことの定義が、文化や社会が異なるとちがってくるのでは共通の視点に立った異なる文化の調査研究は困難になるので、今後、共通の概念としての「謝る」ということの定義を、新たに作り出して行かな

ければならない。

また、日・タイ間の言語教育においても、表面的な言い回しを理解するだけでは、相互の言語の背景にある文化を理解できず、相手の真意を誤解しがちで、無用な摩擦を起こす原因となり得るため、この「謝る」と「謝る」意志の表現方法の、日・タイそれぞれの文化における違いをさらに明確にして行く必要がある。

くわえて、今回のタイ人にたいする調査結果と、実際の場面での使われ方が、はたして同じか、異なっているかについても今後の課題として調査を進めなければならないと考える。

（今回のアンケート調査を名古屋地区で実施するにあたっては、名古屋大学の秦喜美恵助教授のご協力をいただいた。心より感謝申し上げたい。）

#### 注

- \* 1 タイ語には、謝ることばが感謝を表すことばでもあるという例はない。
- \* 2 社会的エチケットについては、堀江、1990年、「日本語とタイ語の会話行動における 社会文化的相違」(pp. 8-9) 参照
- \* 3 これと同じ状況でも、タイ人は、事情を説明するだけで、謝らないこと
- \* 4 「もうしわけない」、「もうしわけありません」、「もうしわけございません」は、相手との間柄などの状況の違いによって使い方が変わってくるが、その点につき、ここでは触れない。
- \* 5 “thōod”は“khǎothōod”の省略で“khǎothōod”より軽く、挨拶ことばに近いのでよく使われる。
- \* 6 ホームズによると、ニュージーランド英語においては、時間についての謝り方の形は、半数は彼女の分類によるAのタイプ（明確な謝る表現）であり、人を待たせることは、相手の時間を無駄にさせることなので、何んらかの説明が必要であるとする。しかし、タイ人の一般的時間の概念はこれとはかなり異なり、人によって謝ったり、謝らなかつたり、その必要を認めなかつたりである。
- \* 7 この諺の意味は、「我々は普通の人間であるから、傷つけ合ったり、喧嘩したりすることがあっても当然で、お互いに許し合ってやて行くべきだ」という意味であって、決して、得意になっている者に謙虚であることを勧めているわけではない。
- \* 8 ただし、この場合の沈黙についてはさらに詳しく調査する必要がある。
- \* 9 Janet Holmes, Vol. 19, No.2, June 1990, pp. 167 参照

## アンケート（日本語訳）

作成者 堀江・インカピロム・プリヤー  
国立国語研究所日本語教育センター第3研究室

性別 男／女 職業 学生 教員 技術者 その他（ ）  
年齢 歳 タイにおける日本語学習歴 年 日本における日本語学習歴 年  
在日期間 年

このアンケートの目的は、在日するタイ人の以下の質問項目についての意見を知るためです。この調査は研究のために行ないますので、皆さまの本当のご意見や事実に基づいてお答えください。ご協力に感謝いたします。

1. 日本人の日常生活では、謝る言葉をどの程度頻繁にあるいは少なく使うと感じますか。  
A. 少ない B. たいへん少ない C. 普通 D. 多い F. たいへん多い
2. 日本人の謝る言葉についてどう思いますか。  
A. 必要以上に多く使う。  
B. 本心から悪いと思って謝る言葉を使う。  
C. 状況に応じて必要なときに適切に使う。  
D. 自分が悪いと認めるのではなく、口先だけで謝る言葉を使う。
3. 日本人の謝り方について、タイの習慣として見習うべきだと考えますか。  
A. 見習うべきではない。 B. 見習うべきだ。
4. 日本人があなたに謝るとき、あなたはどのように感じますか。  
A. 堅苦しくて、どう反応すればよいのか分からない。  
B. 日本人の不誠実さに不快である。  
C. 日本の習慣だから、とくに何も感じない。  
D. 日本人の誠実さや、自らの落ち度を認めるいさぎよさに好感をいだく。  
E. 日本人の時と場所をわきまえた適切性とマナーを心得ていることに好感をいだ

く。

.....

.....

.....

5. 日本人の謝る言葉の使い方について観察して、タイ人と日本人を比較すると、日本人とはどのような国民なのか、意見を記述してください。

.....

.....

.....

6. タイ人の日常生活では、謝る言葉をどの程度頻繁にあるいは少なく使うと感じますか。

A. たいへん少ない B. 少ない C. 普通 D. 多い

7. 日本人とタイ人の謝り方は、同じだと思いますか。

A. 違う B. 同じ

理 由

.....

8. 友達と約束していて、遅刻して到着した場合、友達に会った瞬間、あなたは日本人のように、すぐに謝りますか。

A. すぐに謝る。

B. 友達だから謝る必要がない。

C. 遅刻したことが恥ずかしいから、とぼけて知らん顔する。

D. 本当は悪いと思い、謝りたい気持はあるが、うまく謝れない。というのは、タイの習慣にないから、何となく抵抗があるから。

E. その他

.....

9. 友達から服を借りて返すときに洗濯しアイロンをかけたら、強すぎて服の色が黄色くなってしまいました。あなたならどうしますか。

A. ひとつのエチケットとして、すぐ謝れば弁償しなくても済む。

B. 謝るよりも、事情を説明する。

C. たいしたことではないので、友達が見つけるまで何も言わない。

- D. もし、友達に言えば新しい服を買ってあげなければならないから、黙っている。
- E. 友達にしかられるのが恐いから言わない。
- F. 友達に新しい服を買ってあげると約束して、謝らない。
- G. 友達に許してもらうために、すぐに謝る。
- H. すぐに謝って、新しい服を買って返すと言う。
- I. その他 .....

10. もし、あなたが、故意ではなく、たとえば誰か友達があなたの見えないところにコップを置いておいて、それをあなたが割ってしまった場合、どうしますか。

- A. 見えない所にコップを置くから割ってしまった、と半ば冗談めかして言う。
- B. 友達をなぐさめて、今度、新しい、もっといいコップを買ってあげるから、気にしないで、と言う。
- C. すぐに謝るが、新しいコップを買って返すとは言わない。
- D. 新しいコップを買ってあげるという約束をするが、謝らない。
- E. コップを割ったことは気分が良くないが、自分の不注意さを言葉に出すものの、謝らない。
- F. 自分の不注意を謝って、新しいコップを買ってあげると約束する。

11. もし、あなたの自動車が他の自動車とぶつかった場合、自動車を降りて相手に会ったとき、あなたはすぐに謝りますか。(事実に基づいてお答えください。)

- A. 謝らない。
- B. 謝る。
- C. 状況を見るが、謝らない。
- D. その他

その理由 .....

12. もし、あなたが誰かと喧嘩したり、論争して一応事態が収まった後で、相手にその出来事について謝りますか。

- A. 二度とその話をしない。
- B. 悪いことをしたと認めることになるし、面子がつぶれるので謝らない。
- C. タイの習慣にはないから謝らない。
- D. 争いがあったことについて悪かったと謝る。
- E. その他 .....

13. タイの社会では、小さいことについて謝ると思いますか。

A. 謝る。

B. 謝らない。

その理由 .....

14. もし、事態が深刻であったり、賠償しなければならない場合、あなたも含めて一般のタイ人は、素直に謝りますか。

A. 謝る。 A. 謝る。

普通のタイ人の場合 あなた自身の場合

B. 謝らない。 B. 謝らない。

その理由 .....

15. 日タイの謝り方を比較して、どちらが適当だと考えますか。

A. 日本

B. タイ

その理由 .....

16. タイ人は悪いことをしたときに、謝らないばかりか、自分が悪いのに、言い訳をしてかえって相手を責める、とある日本人は言いますが、あなたはどのように思いますか。

A. 事実なので賛成である。

B. タイ人はいつも自分の罪を認めて謝るので、賛成しない。

C. ある程度は賛成であるが、必ずしもそうであるとは言えない。

D. 多くのタイ人は何か悪いことしても言い訳をして、謝らないという点は賛成である。

その理由 .....

## アンケート結果についての概要

性別 男／女 職業 学生 教員 技術者 その他（ ）

44／42 54 8 4 11 NA 8

平均年齢 27.0 歳 タイにおける日本語学習歴平均 9.6 カ月

日本における日本語学習歴平均 9.8 カ月 在日期間平均 2.7 年

1. 日本人の日常生活では、謝る言葉をどの程度頻繁にあるいは少なく使うと感じますか。

A. 少ない B. たいへん少ない C. 普通 D. 多い E. たいへん多い  
10 (11.6%) 49 (57.0%) 27 (31.4%)

2. 日本人の謝る言葉についてどう思いますか。(複数回答あり)

A. 必要以上に多く使う。13 (15.1%)  
B. 本心から悪いと思って謝る言葉を使う。6 (7.0%)  
C. 状況に応じて必要なときに適切に使う。18 (20.9%)  
D. 自分が悪いと認めるのではなく、口先だけで謝る言葉を使う。52 (60.5%)

3. 日本人の謝り方について、タイの習慣として見習うべきだと考えますか。

A. 見習うべきではない。48 (55.8%) B. 見習うべきだ。35 (40.7%)  
NA 3 (3.5%)

4. 日本人があなたに謝るとき、あなたはどのように感じますか。(複数回答あり)

A. 堅苦しくて、どう反応すればよいのか分からない。15 (17.4%)  
B. 日本人の不誠実さに不快である。7 (8.1%)  
C. 日本の習慣だから、とくに何も感じない。51 (59.3%)  
D. 日本人の誠実さや、自らの落ち度を認めるいさぎよさに好感をいだく。  
1 (1.2%)  
E. 日本人の時と場所をわきまえた適切性とマナーを心得ていることに好感をいだく。  
16 (18.6%)

5. 日本人の謝る言葉の使い方について観察して、タイ人と日本人を比較すると、日本人とはどのような国民なのか、意見を記述してください。

(代表的なもの)

- ・不誠実
- ・日本人は形式的に謝っているので、まごころからではない。

- ・謝る言葉は日本人の会話の一部として使われているので、タイ人の方が誠実。
- ・口と心が一致していない。
- ・礼儀にこだわりすぎ。
- ・会話に決まった形式がある。
- ・日本人は婉曲に話し、遠慮しすぎる。
- ・礼儀正しくい。
- ・相手の気持ちを大切にする。
- ・日本人は丁寧な人々である。
- ・タイ人が相手に謝らないよりも良い。
- ・謝る言葉は、習慣として教えられた。
- ・悪いか悪くないかにかかわらず日本人はまず謝る。
- ・相手の気持ちを大切にする。
- ・何でも自分が悪いと謝る。
- ・口先だけなのか、まごころなのか、区別できない。
- ・謙遜
- ・丁寧
- ・日本人は人間関係を保つために、謝る言葉をよく使う。

6. タイ人の日常生活では、謝る言葉をどの程度頻繁にあるいは少なく使うと感じますか。

- A. たいへん少ない 33 (38.4%) B. 少ない 4 (4.7%) C. 普通 44 (51.2%)  
D. 多い 1 (1.2%) NA 4 (4.7%)

7. 日本人とタイ人の謝り方は、同じだと思いますか。

- A. 違う 69 (80.2%) B. 同じ 13 (15.1%) NA 4 (4.7%)

8. 友達と約束していて、遅刻して到着した場合、友達に会った瞬間、あなたは日本人のように、すぐに謝りますか。

- A. すぐに謝る。 80 (93.0%)  
B. 友達だから謝る必要がない。 3 (3.5%)  
C. 遅刻したことが恥ずかしいから、とぼけて知らん顔する。 0 (0.0%)  
D. 本当は悪いと思い、謝りたい気持はあるが、うまく謝れない。というのは、タイの習慣にないから、何となく抵抗があるから。 1 (1.2%)  
E. その他 1 (1.2%)  
NA 1 (1.2%)

9. 友達から服を借りて返すときに洗濯しアイロンをかけたら、強すぎて服の色が黄色くなってしまいました。あなたならどうしますか。
- A. ひとつのエチケットとして、すぐ謝れば弁償しなくても済む。15 (17.4%)
  - B. 謝るよりも、事情を説明する。8 (9.3%)
  - C. たいしたことではないので、友達が見つかるまで何も言わない。0 (0.0%)
  - D. もし、友達に言えば新しい服を買ってあげなければならないから、黙っている。0 (0.0%)
  - E. 友達にしかられるのが恐いから言わない。0 (0.0%)
  - F. 友達に新しい服を買ってあげると約束して、謝らない。1 (1.2%)
  - G. 友達に許してもらうために、すぐに謝る。1 (1.2%)
  - H. すぐに謝って、新しい服を買って返すと言う。18 (20.9%)
  - I. その他 42 (48.8%)
  - NA 1 (1.2%)
10. もし、あなたが、故意ではなく、たとえば誰か友達があなたの見えないところにコップを置いておいて、それをあなたが割ってしまった場合、どうしますか。
- A. 見えない所にコップを置くから割ってしまった、と半ば冗談めかして言う。10 (11.6%)
  - B. 友達をなぐさめて、今度、新しい、もっといいコップを買ってあげるから、気にしないで、と言う。3 (3.5%)
  - C. すぐに謝るが、新しいコップを買って返すとは言わない。17 (19.8%)
  - D. 新しいコップを買ってあげるという約束をするが、謝らない。0 (0.0%)
  - E. コップを割ったことは気分が良くないが、自分の不注意さを言葉に出すものの、謝らない。5 (5.8%)
  - F. 自分の不注意を謝って、新しいコップを買ってあげると約束する。50 (58.1%)
  - NA 1 (1.2%)
11. もし、あなたの自動車が他の自動車とぶつかった場合、自動車を降りて相手に会ったとき、あなたはすぐに謝りますか。(事実に基づいてお答えください。)
- A. 謝らない。(16 (18.6%) : 誰が悪いかわからないから)
  - B. 謝る。(36 (41.9%) :  
もし、自分が本当に悪かった、あるいは、自分が悪いと感じたときに限る。謝ることによって賠償額が少なくなるように、また、相手がこれ以上怒らないように。)
  - C. 状況を見るが、謝らない。(26 (30.2%))
  - D. その他 3 (3.5%)
  - NA (5 (5.8%))

12. もし、あなたが誰かと喧嘩したり、論争して一応事態が収まった後で、相手にその出来事について謝りますか。
- A. 二度とその話をしない。35 (40.7%)
- B. 悪いことをしたと認めることになるし、面子がつぶれるので謝らない。  
4 (4.7%)
- C. タイの習慣にはないから謝らない。2 (2.3%)
- D. 争いがあったことについて悪かったと謝る。38 (44.2%)
- E. その他 3 (3.5%)
- NA 4 (4.7%)
13. タイの社会では、小さいことについて謝ると思いますか。
- A. 謝る。(38 (44.2%))
- B. 謝らない。(46 (53.5%))
- NA 1 (1.2%)
- 無効 1 (1.2%)
14. もし、事態が深刻であったり、賠償しなければならない場合、一般のタイ人は、また、あなたは、素直に謝りますか。
- ◎一般のタイ人 A. 謝る。40 (46.5%) B. 謝らない。44 (51.2%)  
N.A. 0 (0%)
- ◎あなた自身 A. 謝る。39 (45.3%) B. 謝らない。27 (31.4%)  
N.A. 17 (19.8%) 無効 1 (1.2%)
- 全体の NA 2 (2.3%)
15. 日タイの謝り方を比較して、どちらが適当だと考えますか。
- A. 日本 (28 (32.6%))
- B. タイ (35 (40.7%))
- NA 23 (26.7%)
16. タイ人は悪いことをしたときに、謝らないばかりか、自分が悪いのに、言い訳をしてかえって相手を責める、とある日本人は言いますが、あなたはどのように思いますか。
- A. 事実なので賛成である。(5 (5.8%))
- B. タイ人はいつも自分の罪を認めて謝るので、賛成しない。(14 (16.3%))
- C. ある程度は賛成であるが、必ずしもそうであるとは言えない。(64 (74.4%))
- D. 多くのタイ人は何か悪いことしても言い訳をして、謝らないという点は賛成で

ある。(1 (1.2%))

NA 2 (2.3%)

## 参考文献

- Barnlund, D. C. *Public and Private Self in Japan and the United States*. Tokyo: The Simul Press, Inc., 1975.
- Clammer, J. R. "Sociological Approaches to the Study of Language and Literacy in Southeast Asia." In *Sociology Working Paper No.56*, Singapore: University of Singapore Press, 1976.
- Edmondson, W. J. "On Saying You're Sorry" Coulmas Florian ed. In *Conversational Routine*, Vol.2, pp.273. Hague: Mouton Publishers 1981.
- Firth, R. "Bodily Symbols of Greeting and Parting." In *Symbols: Public and Private*.
- Fraser, B. "On Apologizing" Coulmas Florian ed. In *Conversational Routine*, Vol.2, pp.259-272. Hague: Mouton Publishers 1981.
- Goffman, E. *The Presentation of Self in Everyday Life*. New York: Doubleday, 1959.
- \_\_\_\_\_. *International Ritual: Essays in Face-to-Face Behavior*. Chicago: Aldine, 1967.
- \_\_\_\_\_. *Relations in Public*. New York: Harper and Row, 1971.
- Goody, E. N., ed. *Questions and Politeness: Strategies in Social Interaction*. Cambridge: Cambridge University Press, 1978
- Grice, P. H. "Logic and Conversation." Peter Cole and Jerry L. Morgan, eds. In *Syntax and Semantics*, Vol. 3: *Speech Acts*, pp. 41-58. Urbana: University of Illinois Press, 1975.
- Gumperz, J. J. *Discourse Strategies*. Cambridge: Cambridge University Press, 1982.
- Holmes, J. "Apologies in New Zealand English" in *Language in Society*. Vol.19, No.2, June 1990, pp.155-199.
- 彭 国曜, 「『謝罪』行動の遂行とその社会的相関性について — 日中比較社会語用論的視点から —」, 日本言語学会大会資料, 1990.
- Horie, I. P. *A Preliminary Investigation of Thai and Japanese Formulaic Expressions*. Ph. D. Dissertation. University of California, Berkeley, 1985.
- 堀江 インカピロム プリヤー, 「日本語とタイ語の会話行動における社会文化的相違」『東京外国語大学日本語学科年報 12』, pp.1-14, 東京外国語大学外国語学部,

1990.

- \_\_\_\_\_ 「日・タイのあいさつ表現からみた社会・文化・価値観のちがい」『日本語教育』, 日本語教育学会, pp.126-135, 第72号, 1990.
- 金田一春彦, 『日本人の言語表現』, 東京: 講談社, 1977.
- \_\_\_\_\_ 『ことばの研究室—日本人の言語生活』, 東京: 講談社, 1977.
- Leech, G. N. *Principles of Pragmatics*. New York: Longman, 1983.
- Levinson, S. C. *Pragmatics*. Cambridge: Cambridge University Press, 1983.
- 中田智子, 「発話行為としての陳謝と感謝 — 日英比較 —」『日本語教育』, 日本語教育学会, pp.191-203, 第68号, 1989.
- 直塚玲子, 『欧米人が沈黙するとき—異文化間のコミュニケーション』, 東京: 大修館書店, 1989.
- 水谷修, 『日本語の生態』, 東京: 創拓社, 1979.
- \_\_\_\_\_ 『外国語としてみた日本語の言語行動』(講座 日本語学 12) pp. 218-229, 寺村秀夫編, 東京: 明治書院, 1982.
- Mizutani, O. and N. *Nihongo Notes* Vol.1-5. Tokyo: The Japan Times, Ltd., 1977-90.
- Wadcanasunthorn, P. *Khaaniyom nai samnuan Thai*. Bangkok: Odian Satoo, 1980.
- 渡辺吉鎔・鈴木孝夫, 『朝鮮語のすすめ』, 東京: 講談社, 1981.
- 柳田國男, 『毎日の言葉』, 東京: 創元社, 1946.